

# ベラルーシ共和国 (Republic of Belarus)

## 1. 一般事情

面積	20万7,600 km <sup>2</sup> (日本の約半分)
人口	約941万人 (2013年4月)
首都	ミンスク
民族	ベラルーシ人 (83.7%)、ロシア人 (8.3%)、ポーランド人 (3.1%)、ウクライナ人 (1.7%)
言語	公用語はベラルーシ語 (東スラヴ諸語の一つでロシア語に近い)、ロシア語
宗教	ロシア正教が最も優勢、その他、カトリック、無宗教

## 2. 政治体制・内政

政体	共和制
元首	アレクサンドル・ルカシェンコ大統領 (任期 5年)
議会	二院制 ・上院：共和国院 (定数 64名、州議会代表及び大統領指名議員) ・下院：代表者院 (定数 110名、小選挙区制、任期 4年)

## 3. 経済

主要産業 (産業別構造比)	工業 (31.8%)、商業 (14.3%)、農林畜産業 (8.4%)、建設業 (6.9%) (2012年：ベラルーシ共和国国家統計委員会)
国民総生産 (GDP)	551億ドル (2011年：世銀)
一人当たりGDP	5,820ドル (2011年：世銀)
経済成長率	5.3% (2011年：世銀)
物価上昇率	21.8% (2012年：ベラルーシ共和国国家統計委員会)
失業率	0.6% (2013年3月：ベラルーシ共和国国家統計委員会)
貿易額	・輸出：460億ドル ・輸入：464億ドル (2012年：ベラルーシ共和国国家統計委員会)
主要貿易品目	・輸出：鉱物製品、化学製品、機械・設備・輸送機材 ・輸入：鉱物製品、機械・設備・輸送機材、化学製品
主要貿易相手国・地域	・輸出：ロシア (35.4%)、オランダ (16.5%)、ウクライナ (12.1%) ・輸入：ロシア (59.3%)、ドイツ (5.9%)、中国 (5.1%) (2012年：ベラルーシ共和国国家統計委員会)
通貨	ベラルーシ・ルーブル (BYR)
為替レート	1米ドル=8,650ベラルーシ・ルーブル (2013年5月現在)



## 4. 農業

農業生産額	67億7247万米ドル (2012年)
主要農畜産物	牛乳 (34.4%)、ジャガイモ (12.8%)、小麦 (6.1%)
農地面積	耕地：552万ha、放牧地：315万ha

## 5. 日本との関係

貿易額(単位:千ドル)

年	日本の輸出(A)	日本の輸入(B)	収支(A-B)
2009	19,269	6,306	12,963
2010	51,471	6,662	44,809
2011	47,602	15,083	32,520
2012	38,708	20,960	17,748
2013	43,306	26,102	17,204

主要貿易品目 (2013年)  
 ・日本の輸出：一般機械 (48.4%)、輸送用機器 (16.8%)  
 ・日本の輸入：化学製品 (74.5%)、原料別製品 (11.4%)

在留邦人 39人 (2012年10月現在)

(出所)

1-3：「一般事情」「政治体制・内政」「経済」：外務省  
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/belarus/index.html>  
 4：FAOSTAT

5：「貿易額」「主要貿易品目」：ロシアNIS調査月報2014年6月号、「在留邦人」：外務省

# 1. 農林水産業概況

## (1) 地理

ベラルーシは、東はロシア、北はラトビアとリトアニア、西はポーランド、南はウクライナと国境を接している。国土面積は、20万7,600 km<sup>2</sup>であり、針葉樹林と広葉樹林、その混合林が国土の約25%を占めている。

国内は高速道路をはじめとする道路網が充実しており、航行用河川やドニエプル・ブーグ運河によってバルト海や黒海とむすばれている。地形は中央部と北部を東西に丘陵が連なり、北部は西ドヴィナ川の流域で約4,000の湖沼と湿原があり、氷河堆積物に覆われている。南部はドニエプル川の支流とプリピャチ川、その支流が流れ、大湿地帯となっておりプリペット湿地と呼ばれている。河川は重要な交通手段であり、古くから運河が開かれ、可航河川延長は約3,000 kmにもおよぶ。<sup>9</sup>



ベラルーシの地形図



ベラルーシの地域

出所：FAO Document Repository

## (2) 気候

ベラルーシは、海洋性気候から大陸性気候にわたる温帯気候帯に位置しており、海拔が160～345m、平均年間降水量も600～650mm、平均気温は1月が-6.3℃、7月が18.6℃と農業に適した地といえる。



出所：weatherbase (<http://www.weatherbase.com/>)

月平均気温と月平均降水量(左:mm、右:°C)<sup>10</sup>

<sup>9</sup> 参考：「ベラルーシの風」 [http://www.belarus.jp/Belarus/A\\_country\\_and\\_resources.html](http://www.belarus.jp/Belarus/A_country_and_resources.html)

<sup>10</sup> 気温：61都市、99年間平均。降水量：58都市、101年間平均。

### (3) 農業政策の特徴

1922 年ソ連邦の成立とともに、ベラルーシも他の共和国と同様、農業の集団化が図られた。とりわけ 1960 年代には、鉱物肥料や農薬の使用、新しい品種の栽培など、伝統的な農法に反する手法を取り入れたため、これらが土壌に悪影響を与えた。

1990 年代、ソ連の崩壊に伴い、他の共和国では大きな政治的・経済的変化が起こったが、ベラルーシでは、従来の中央集約的農業生産が継続された。

1992 年から 1995 年にかけては、農作物の価格の自由化、紙幣発行量の増加など、農業の自由化、市場経済の発展に合わせた農業政策の転換がみられたが、その後農業改革も中断され、以降は、旧ソ連諸国全体の経済低迷や社会システムの再編期にあたり、農業生産量は大きく後退した。

土地改革に関しては、主として、個人兼業農家の所有する土地面積が 2 倍となった。その結果、とりわけジャガイモ、野菜の生産における民間部門の役割が上昇した。しかしベラルーシでは依然として農業用地の売却は禁止されており、民間部門が所有している土地も家族のメンバーに対し農業目的で利用することを条件に譲渡することが許可されているのみである。

2000 年以降、化学合成肥料や大型農機を広く利用し、単位面積あたり最大規模の生産性を上げることを目指す集中型農業が行われている。しかし、それは農業機械、エネルギー・化学品の大規模な投入を前提としたものである。生産単位あたりの投入エネルギー量は米国の 3~4 倍と高く、ソ連時代から化学肥料の過利用により土壌が荒廃しているため、土壌改良のコストも高く、生産コストが著しく上昇している。<sup>11</sup>

ベラルーシは 2010 年にロシア、カザフスタンと共に関税同盟を立ち上げ、域内経済の活性化を進めている。農業分野としては価格競争力のあるジャガイモ、生産量が増える鶏肉や牛乳の域内出荷を増やしている。ベラルーシの対ロ輸出をみると、2012 年では 40%以上が乳製品となっており、近年ロシアの EU 諸国からの農産品輸入制限に伴い、ロシア市場への乳製品の輸出は拡大している。一方、ベラルーシは農業機械および肥料（カリ類）の供給国として位置づけられている。旧ソ連諸国では旧ソ連時代に導入した農業機械がすでに 20 年以上を経過し新規機械の導入が不可欠となっており、これらのニーズにベラルーシの農業機械が対応している。



関税同盟加盟国を中心に販売されるベラルーシ産トラクター  
(ミンスク・トラクター・ザボード社提供データ)

<sup>11</sup> 以下のサイトを参考にした。

FAO (<http://www.fao.org/3/a-aq672r.pdf>)

AGRICULTURE Organic farming

(<http://agricultura.org/articles/practical/sostojanie-selskogo-hozjajstva-v-belarusi-subjektivnyj-vzgljad.html>)

Agro Web Belarus (<http://aw.belal.by/russian/prof/prof.htm>)

#### (4) 農業セクター概況

##### 1) 土地利用

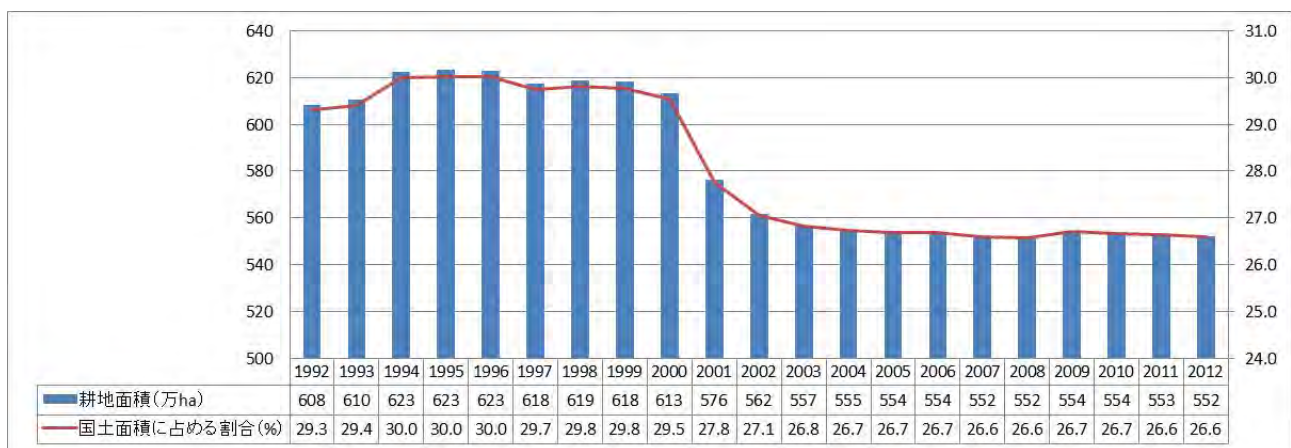
2012年のデータでは、全農業用地は879万6,000haであり、そのうち552万2,000haが耕作地、315万4,000haが草原である（牧草地・放牧地を含む）。全農業用地のうち16.4%で土地改良が行われている。またこれらの農地のうちの469万8,200haを農業組織（コルホーズ、ソフホーズなど）が利用し、68万2,100haを個人が利用している。また64万haは個人の兼業農家が利用し、3万1,600haはダーチャ経営に、8万5,400haは集団農場が利用している。播種面積の26.2%は干拓地であり、0.4%は灌漑を施した土地である。

ベラルーシと日本の土地利用状況(万ha)

国	ベラルーシ							日本
	1992	1995	2000	2005	2010	2011	2012	2012
国土面積	2,076	2,076	2,076	2,076	2,076	2,076	2,076 ( 100.0% )	3,780 ( 100.0% )
農地	939	934	925	895	890	888	880 ( 42.4% )	455 ( 12.0% )
耕地面積	608	623	613	554	554	553	552 ( 26.6% )	425 ( 11.2% )
永年作物地	18	15	12	12	12	12	12 ( 0.6% )	30 ( 0.8% )
永年牧草・放牧地	313	296	300	329	324	322	315 ( 15.2% )	0 ( 0.0% )
森林	788	803	827	844	863	867	871 ( 42.0% )	2,500 ( 66.1% )
その他	301	292	276	290	276	275	279 ( 13.4% )	691 ( 18.3% )
陸水	48	48	48	48	47	47	47 ( 2.3% )	134 ( 3.5% )

出所：FAOSTAT、日本国農林水産省

(カッコ内は国土面積に占める割合)



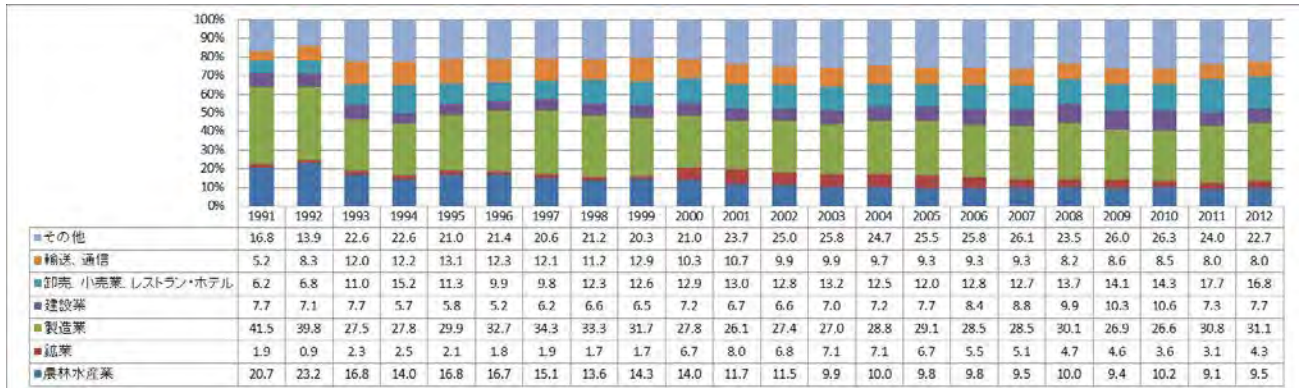
出所：FAOSTAT

耕地面積の推移(左:万ha、右:%)



## 2) 国内産業における農業の比重

ベラルーシの主要な産業は、機械製造および金属加工、化学、石油産業、発電、軽産業、木材加工などである。2008年の産業生産における各分野の割合は、機械製造 23.2%、燃料生産 21.3%、食品 14.6%、科学・石油化学製品 13.4%、電力 5.5%である。また農作物の生産は GDP 中 7.5%を占める。農作物の中では亜麻の生産が盛んであり、羊皮の生産量は世界第4位、カリ塩をもとにしたカリ肥料の生産は世界第3位である。

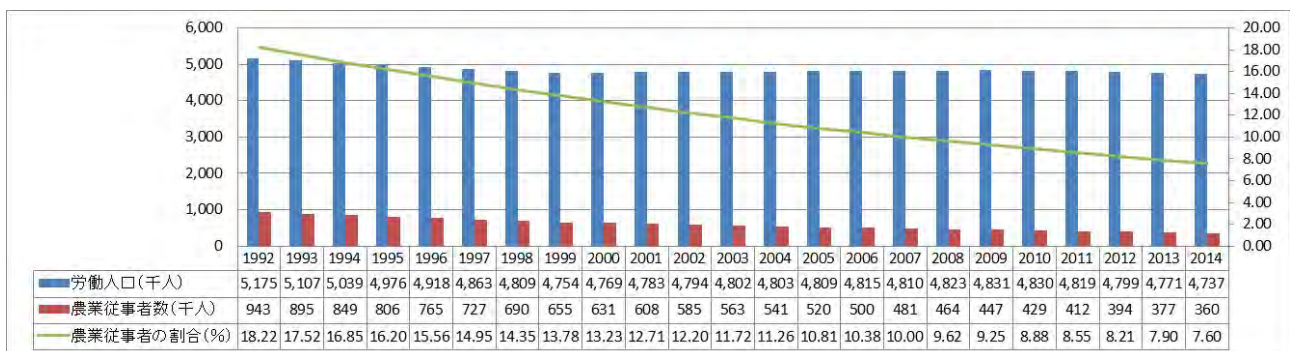


出所：国連統計

産業構造(GDP 構成比)の推移(%)

## 3) 農業就業人口

2000年には全労働人口における農業従事者の割合は 13.23%であったが、2014年には 7.60%にまで減少している。これはこの部門における所得が他の部門よりも極端に少ないことが原因として挙げられる(2010年の統計によれば、農業部門の所得は国内の平均所得の 67%であった)。また 15 万人が農作物の加工分野で雇用されている。



出所：FAOSTAT

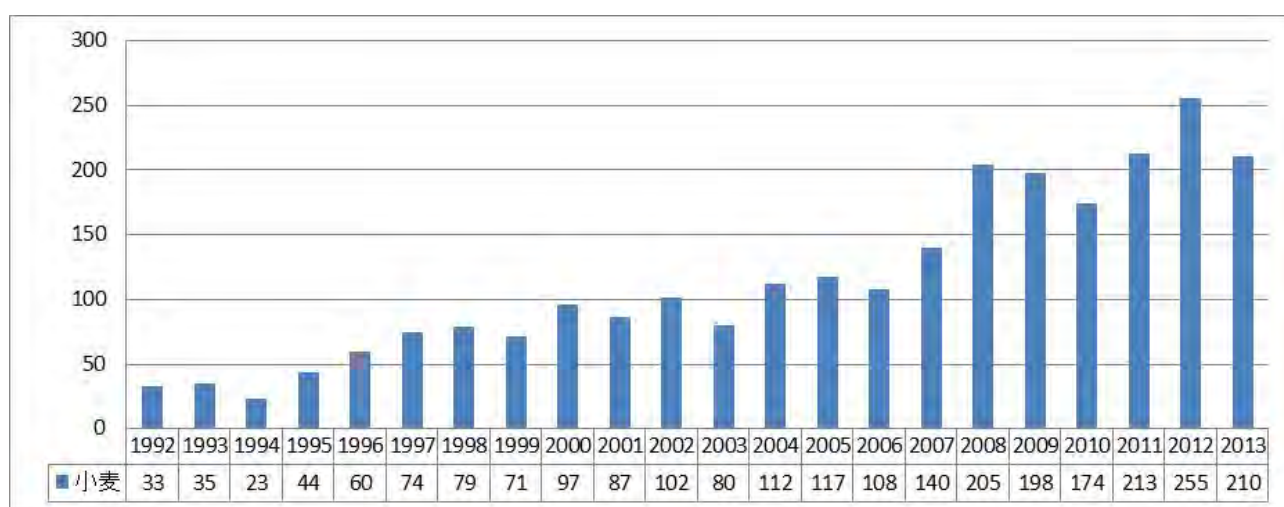
農業就業人口の推移(左:千人、右:%)

#### 4) 農業生産の動向

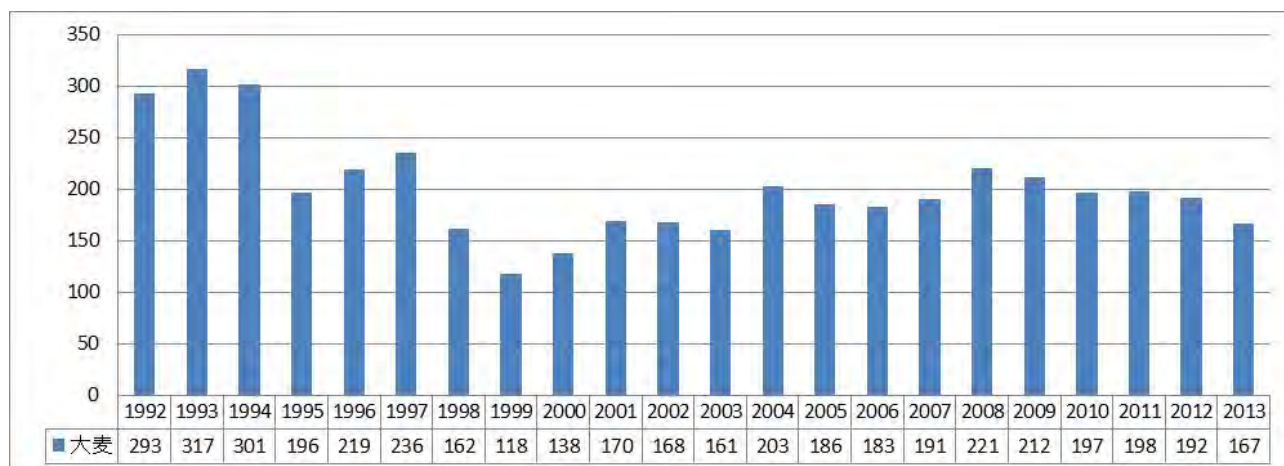
##### ① 主要農産物の生産動向

ベラルーシはジャガイモの生産で NIS 諸国ではウクライナに次いで 2 位、穀物はカザフスタン、ウクライナについて第 3 位である。他の NIS 諸国と異なり、ベラルーシではいまだにコルホーズ、ソフホーズ主体の農業を継続しており、ソ連期と比較してその傾向はむしろ強められている。例えば、亜麻の 98.6%、テンサイの 93.6%、穀物の 86.8%、野菜の 12.9%、ジャガイモの 11.1%はコルホーズ、ソフホーズの生産による。これらは政府の莫大な額の援助により支えられ、各主要作物の生産状況はその時の国の政策により大きな影響を受けている。

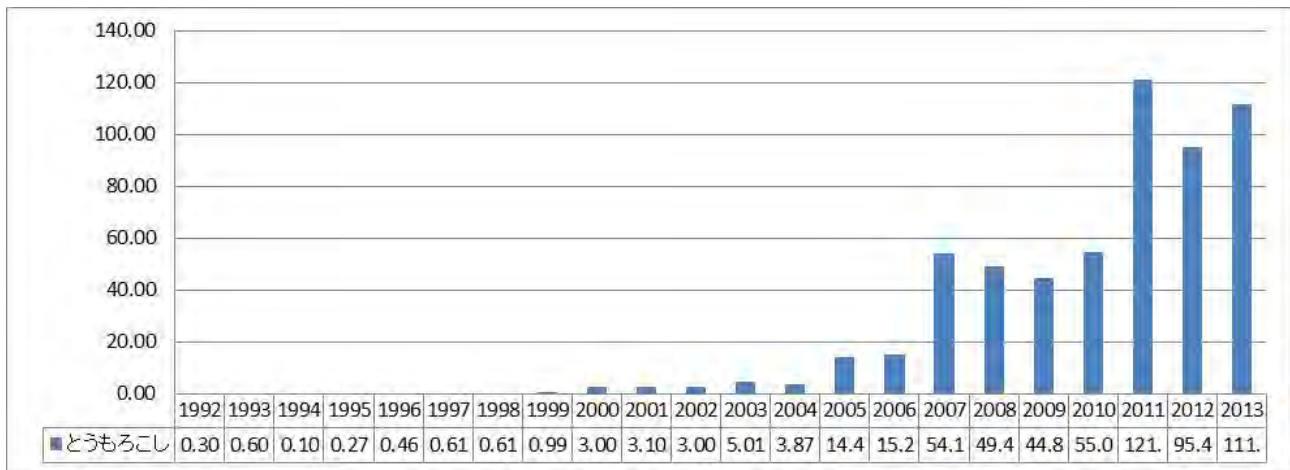
牛乳、肉、卵は 100%自給している。またジャガイモなど野菜も 100%、果物は 52.6%自給していることから明らかなように、生産は主として順調である。



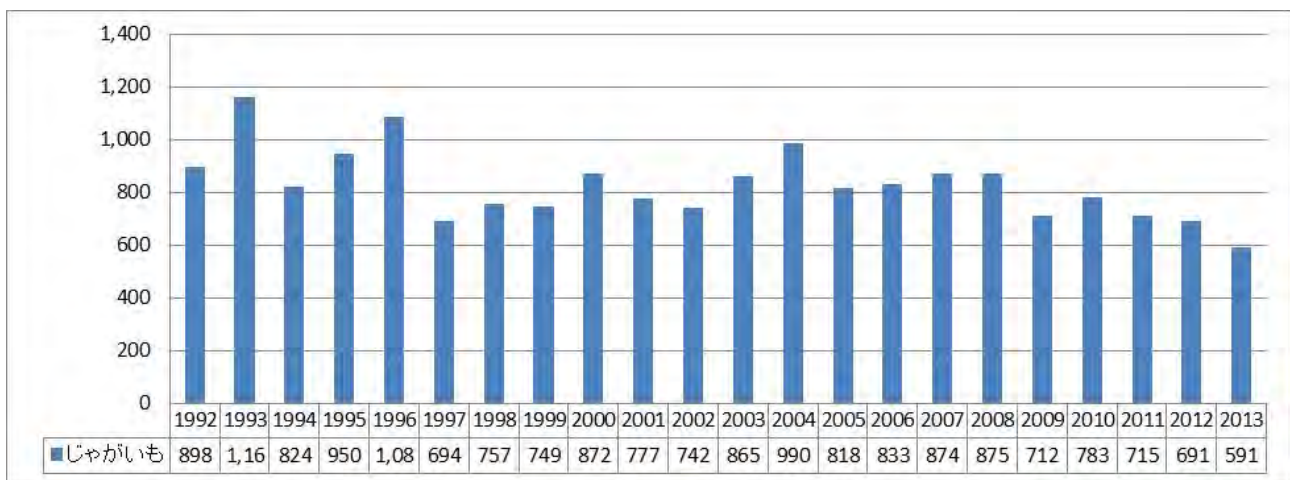
小麦の生産量の推移(万トン)



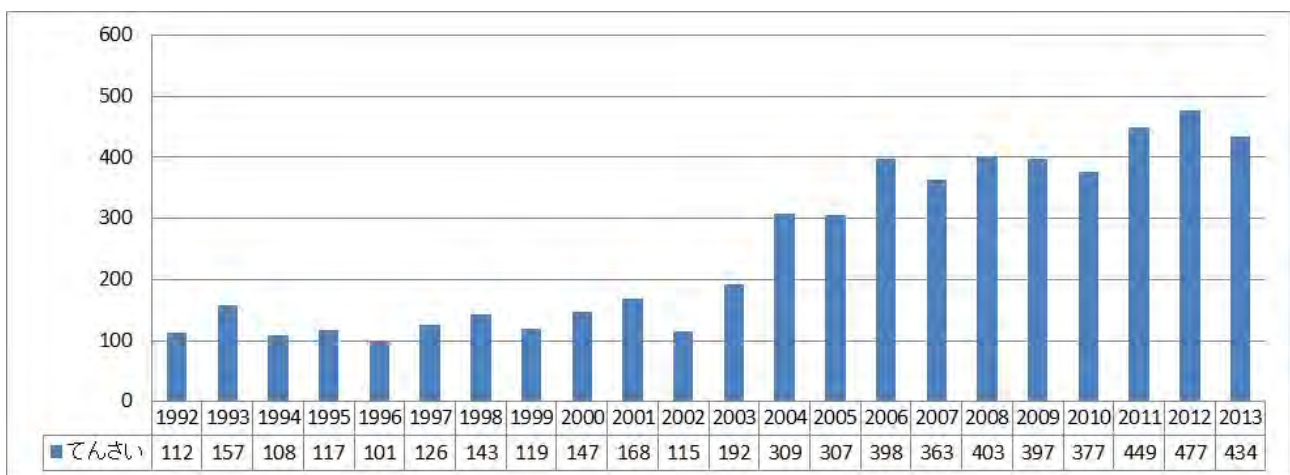
大麦の生産量の推移(万トン)



とうもろこしの生産量の推移(万トン)

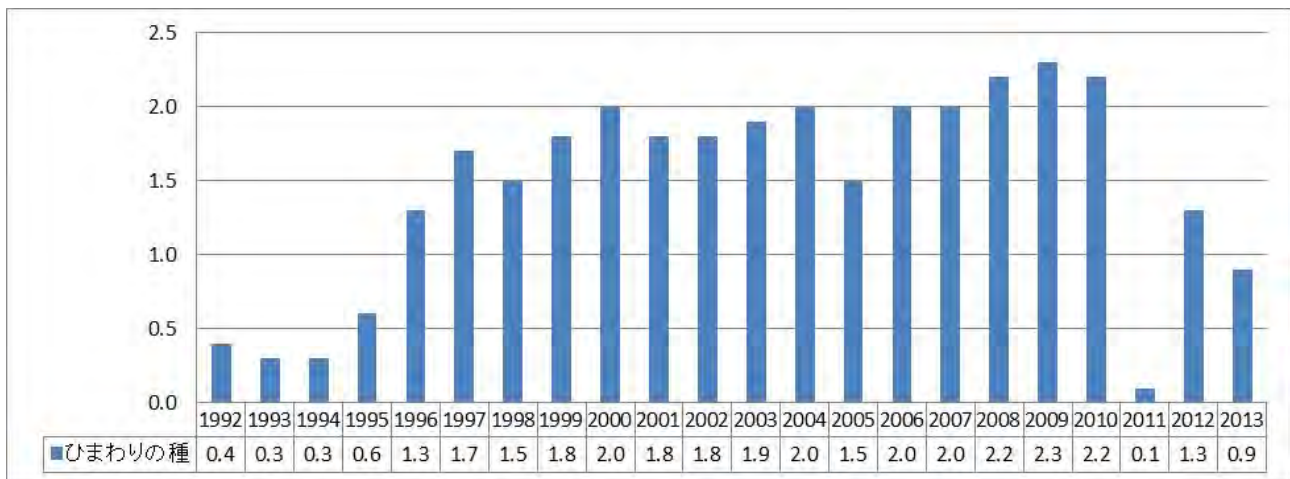


ジャガイモの生産量の推移(万トン)

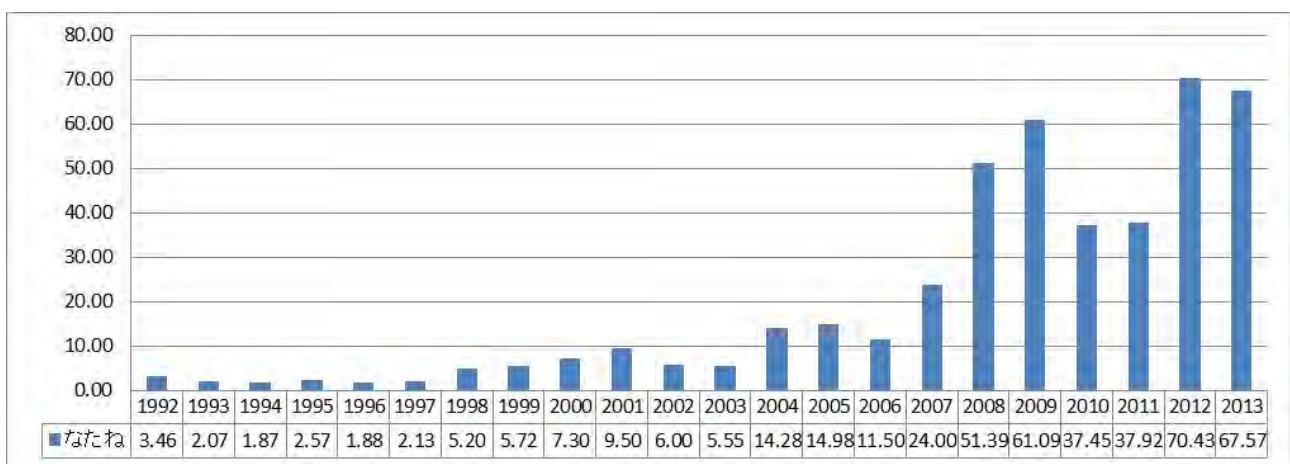


てんさいの生産量の推移(万トン)





ヒマワリの種の生産量の推移(万トン)



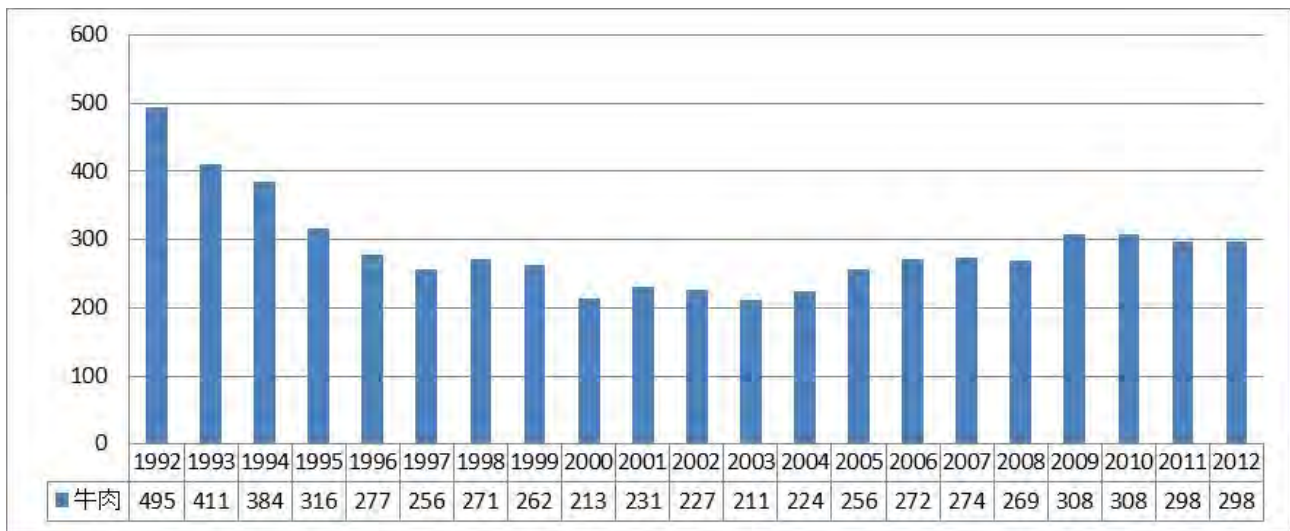
なたねの生産量の推移(万トン)

※以上7点、出所：FAOSTAT

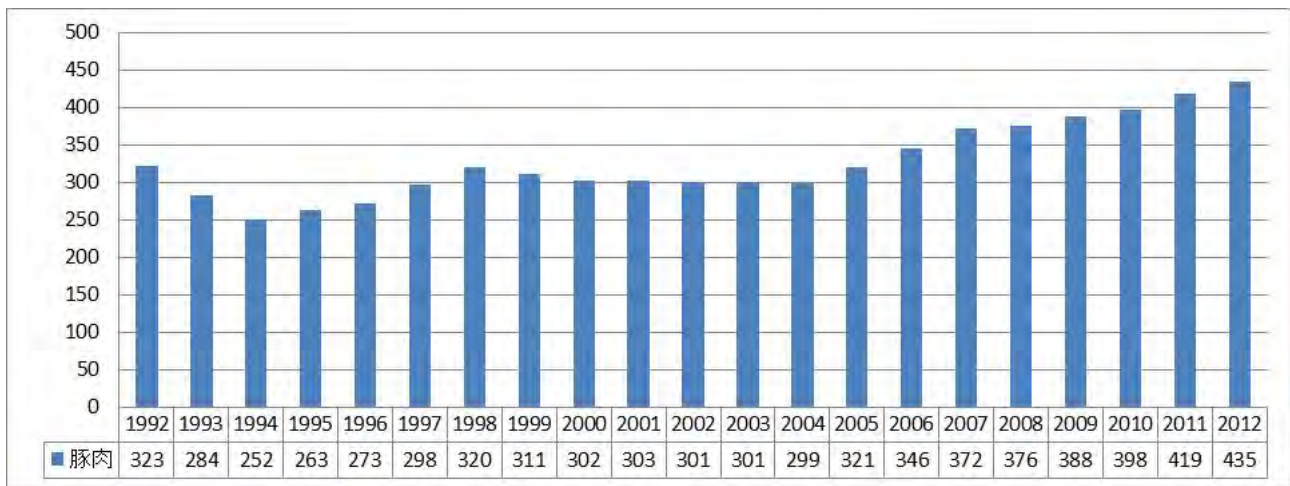
## ②主要畜産物の生産動向

ベラルーシは牛の飼育頭数ではタジキスタンやアゼルバイジャンを上回るが、カザフスタン、ウクライナなどと比較すると3分の2程度である。また豚の生産量も CIS 諸国のイスラム諸国よりは上回るが、ウクライナ、ロシアよりも大きく下回る。これは羊、山羊に関してもあてはまり、タジキスタン、キルギスの数十分の1に過ぎない。しかし農作物の生産量の大部分を飼料作物が占めることから明らかなように、国は、食肉、牛乳など畜産製品を輸出の中心と見なし、この分野の発展に注力している。

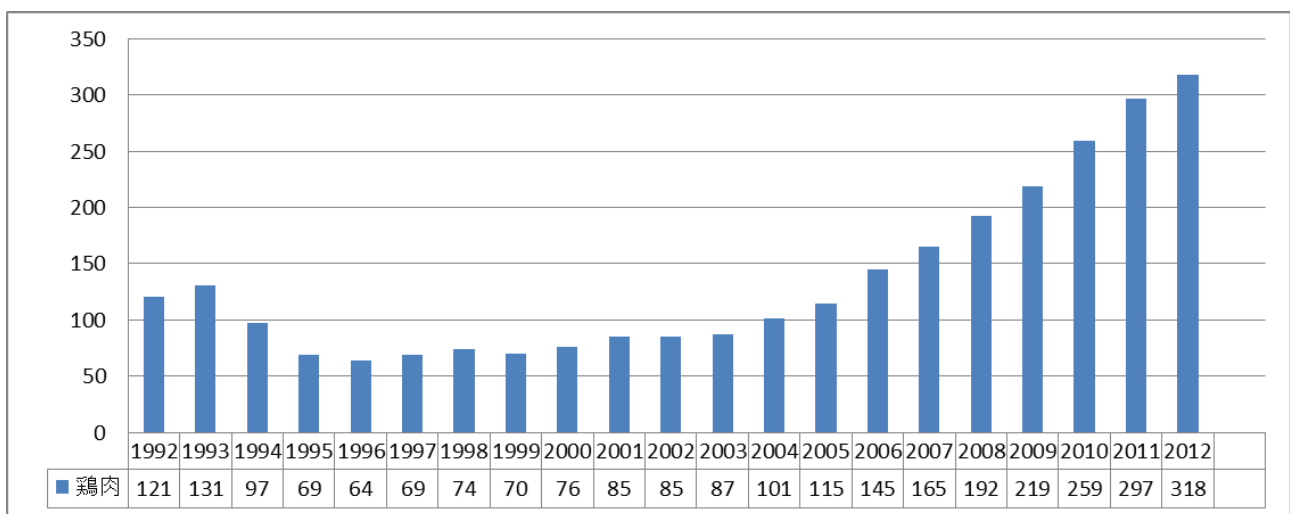




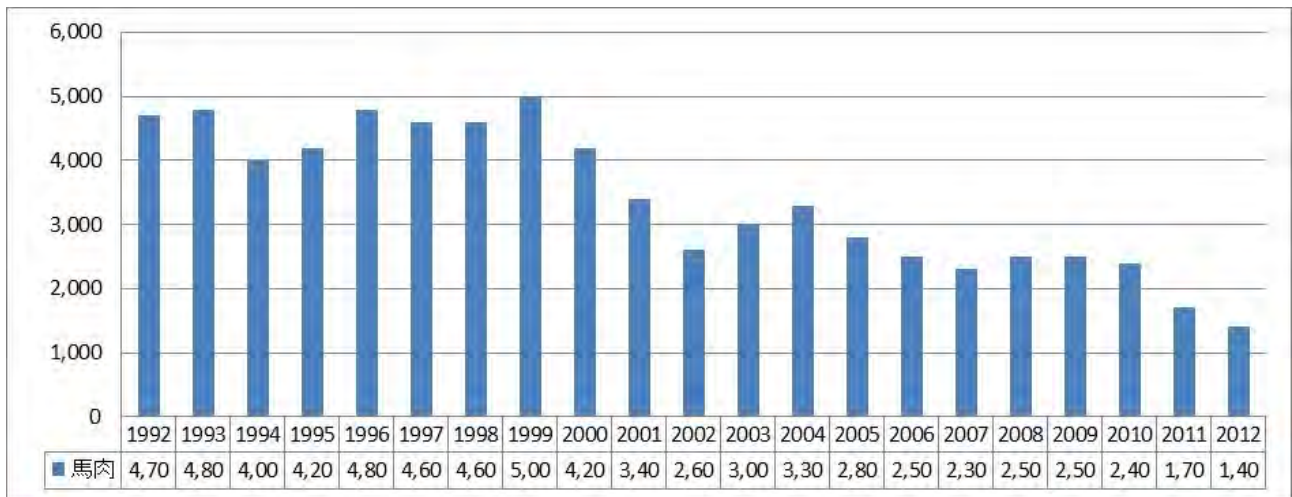
牛肉の生産量の推移(千トン)



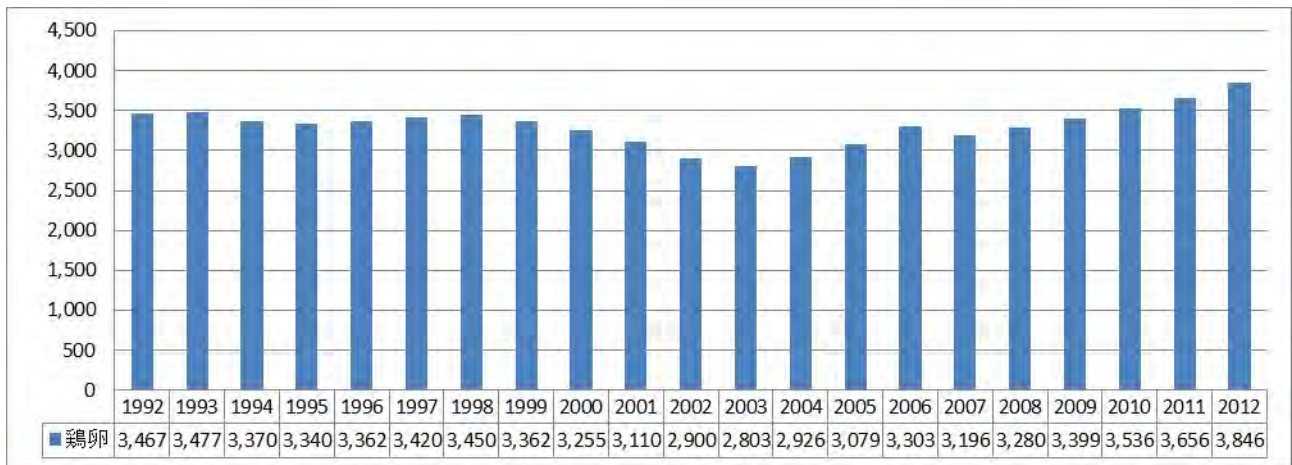
豚肉の生産量の推移(千トン)



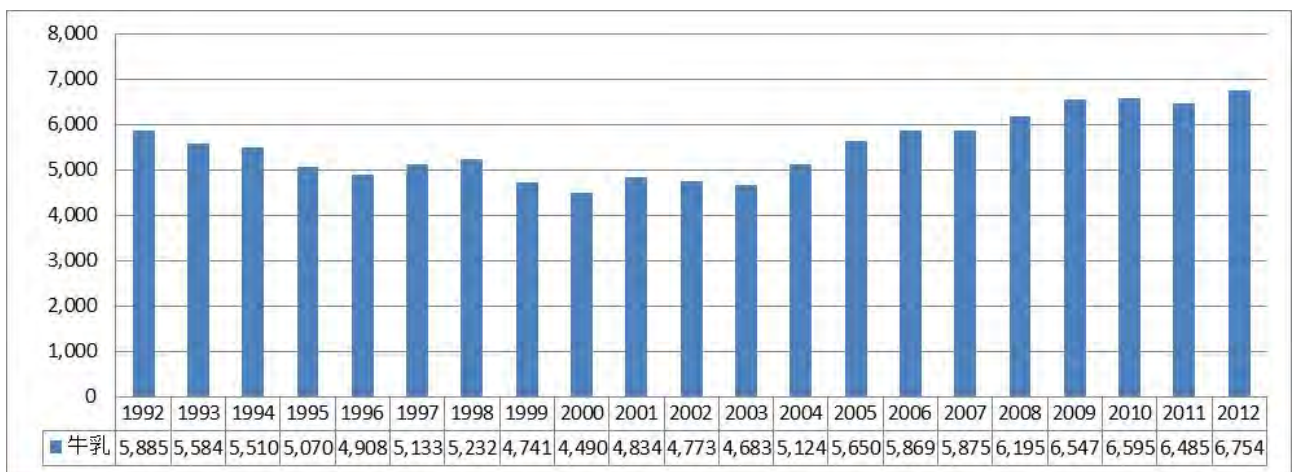
鶏肉の生産量の推移(千トン)



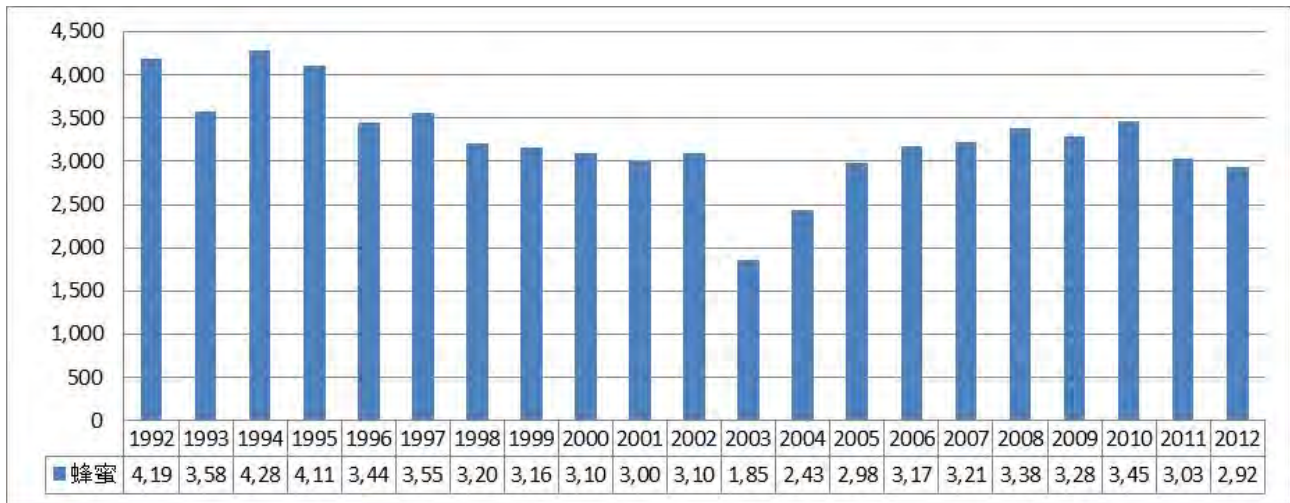
馬肉の生産量の推移(トン)



鶏卵の生産量の推移(百万個)



牛乳の生産量の推移(千トン)

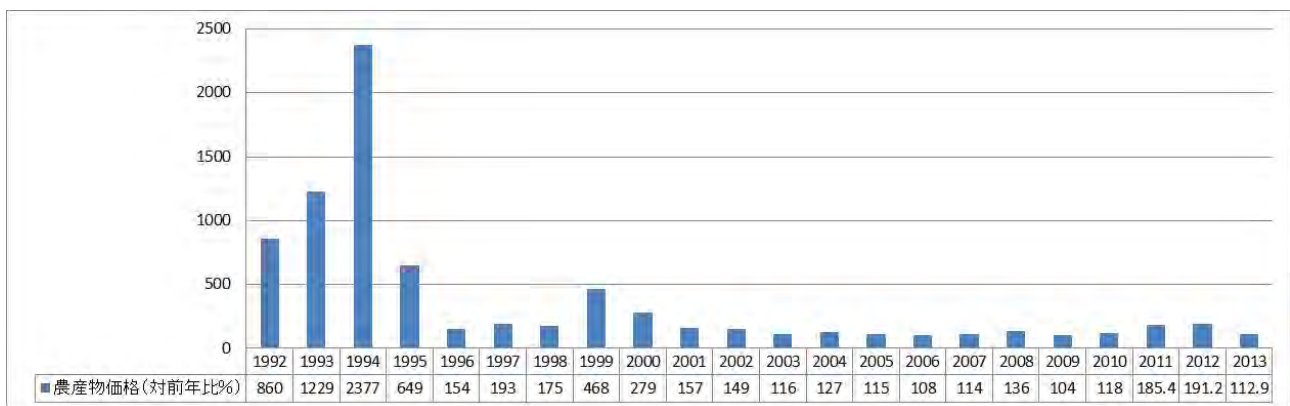


蜂蜜の生産量の推移(トン)

※以上7点、出所：FAOSTAT

### 5) 主要農林水産品の価格

ソビエト崩壊後、経済が混乱したことにより農作物の価格は高騰した。しかし1994年の大統領選挙でルカシェンコが当選し、ロシア連邦との統合を目指す政策を開始すると、1995年以降は、安定傾向にある。ベラルーシではコルホーズ、ソフホーズベースの生産体制により、政府が農作物の固定価格により買付けを行い、国家価格により市場に提供しているため、概して低価格に抑えられている。しかしロシアと比較した場合、買付け価格はロシアよりも著しく低いにもかかわらず、既製食品の市場価格はロシアと実質的に同じである。



出所：CIS 統計委員会

農産物価格の前年比の推移(%)

## 2. 農林水産関係国家政策

国は2005年から農村の再興と発展に関するプログラムを行っている。このプログラムの枠内により、必要なインフラ設備を備えた700の農業拠点が形成された。2005年にはベラルーシの農村への投資は国の投資全体の60%に達した（世界基準は20～30%）。

また従来より、農作物の輸出に多額の国家支援を行っている。2011～2015年に対する国家プログラムでは2010年の22億米ドルの輸出高を2015年には72億米ドルまで引き上げることを目標としている。また国際市場で要求される安全基準証明を支援するため、ベラルーシ農業食料省では249の組織が食品の安全性、環境基準に関する証明書の発行業務に従事している。

このように、ベラルーシ政府は、輸出の促進、その手段としての農村の再興を優先課題としている。以下が、国家プログラムの内容である。

### 国家プログラム「農村の安定的発展プログラム 2011-2015年」

承認済み

ベラルーシ共和国大統領令

2011年8月1日 No.342

### 国家プログラム「農村の安定的発展プログラム 2011-2015年」

#### 概要

- |                      |  |
|----------------------|--|
| (1) 名称               | 国家プログラム「農村の安定的発展プログラム 2011-2015年」(以下、国家プログラムと称す。)  |
| (2) 発案根拠             | 2010年5月21日付 No13 (1章1.4.2項)、2010年4月10日ベラルーシ共和国の国家集会およびベラルーシ人民との交流に際し、大統領ルカシェンコA.G.が委託したプロトコール  |
| (3) 調整役              | 農業食料省  |
| (4) 国家機関の発注者         | 農業食料省、経済省、建設省、住宅および公共サービス省、保健省、文化省、教育省、産業省、通信情報省、スポーツおよび観光省、貿易省、運輸省、労働および社会保護省、エネルギー省、ベラルーシ共和国消費者協会、州執行委員会   |
| (5) 主な考案者および主要業務の実行者 | ベラルーシ国家科学アカデミー、農業食料省、経済省、国家銀行、建設省、住宅および公共サービス省、保健省、文化省、林業省、税務省、教育省、自然資源および環境保全省、産業省、通信情報省、スポーツおよび観光省、貿易省、運輸省、労働および社会保護省、財務省、緊急事態省、エネルギー省、法務省、ベラルーシ国家食品産業コンツェルン“Belgospisheprom”、ベラルーシ軽産業生産および販売国家コンツェルン、石油・化学物ベラルーシ国家コンツェルン、ベラルーシ共和国消費者協会、財産国家委員会、公開株式会社“Belagroprombank”、公開株式会社“Sberegatelny bank”“Belarusbank”、州執行委員会、ミンスク市執行委員会 |
| (6) 目的               | 農村の社会的、経済的な発展の恒常化や、人口動態の状況を以下の方法を用い改善する。<br>農産業共同体(以下、APKと称す)の経済的な有益性を高める。<br>企業を活性化する。<br>国内の食料マーケットのバランスを保つ。   |



輸出の可能性を向上する。  
農村部の収益を高める。  
農村部の社会や生活のレベルを向上する。  
農村部でのエコロジーを保ち、環境を改善する。  
投資を勧誘し効果的に利用する。

(7) 主な課題

農村部において、機動的かつ効果的で、活動しやすい経営をおこなうために、経済や法律の条件を整備する。また、その目的を実現するため、国による農産業部門（以下、APK とする）の支持を効果的に行い、国家と民間レベルの協力関係の向上、外国や国内の投資の勧誘の活性化、起業の促進、効果的な就労、大企業の生産の活性化、統一的な協力関係の形成、小規模経営の支持、APK の機械化を図り、効果的な経営で輸出や販売を向上し、農産物や食料生産量を安定的に成長させ、APK の人材や学術的知識の供給を行う。

農村部での生活がより魅力的になるための環境をつくる。その方法として、以下の方法を用いる。

- －農村部の生活環境を向上する。
- －住んでいる人々の生活のレベルを一般的水準にする。
- －農業都市を農民の高レベルの就農の中心とし、農民の生活を向上し、農村部での人口を安定する。

(8) 実行期間

2011 年から 2015 年

(9) 主な実現方法

- －APK の発展について国の管理を改善する。
- －効率を高め、農産物の生産に係る財政的な問題を解決する。
- －国際的な経験を考慮し、APK に対する国家支援を導入するシステムを改善する。
- －APK における加工産業や対外貿易を進展させる。
- －土地の管理の形態や機能を改善する。
- －農村で、以下の社会分野の改善事業をおこなう。
  - ・住民の雇用を促進する。
  - ・社会的なサービスのシステムを改善する。
  - ・住宅を建設する。
  - ・生活の安全を保証する。
  - ・公共サービスをおこなう。
  - ・電気やガスの供給を改善する。
  - ・通信や情報化を改善する。
  - ・公共道路網を改善する。
  - ・教育・保健・文化・スポーツ・観光を進展させる。
  - ・家事のサービス業・小売・軽食店を進展させる。
  - ・住民の法律業務のサービスをおこなう。

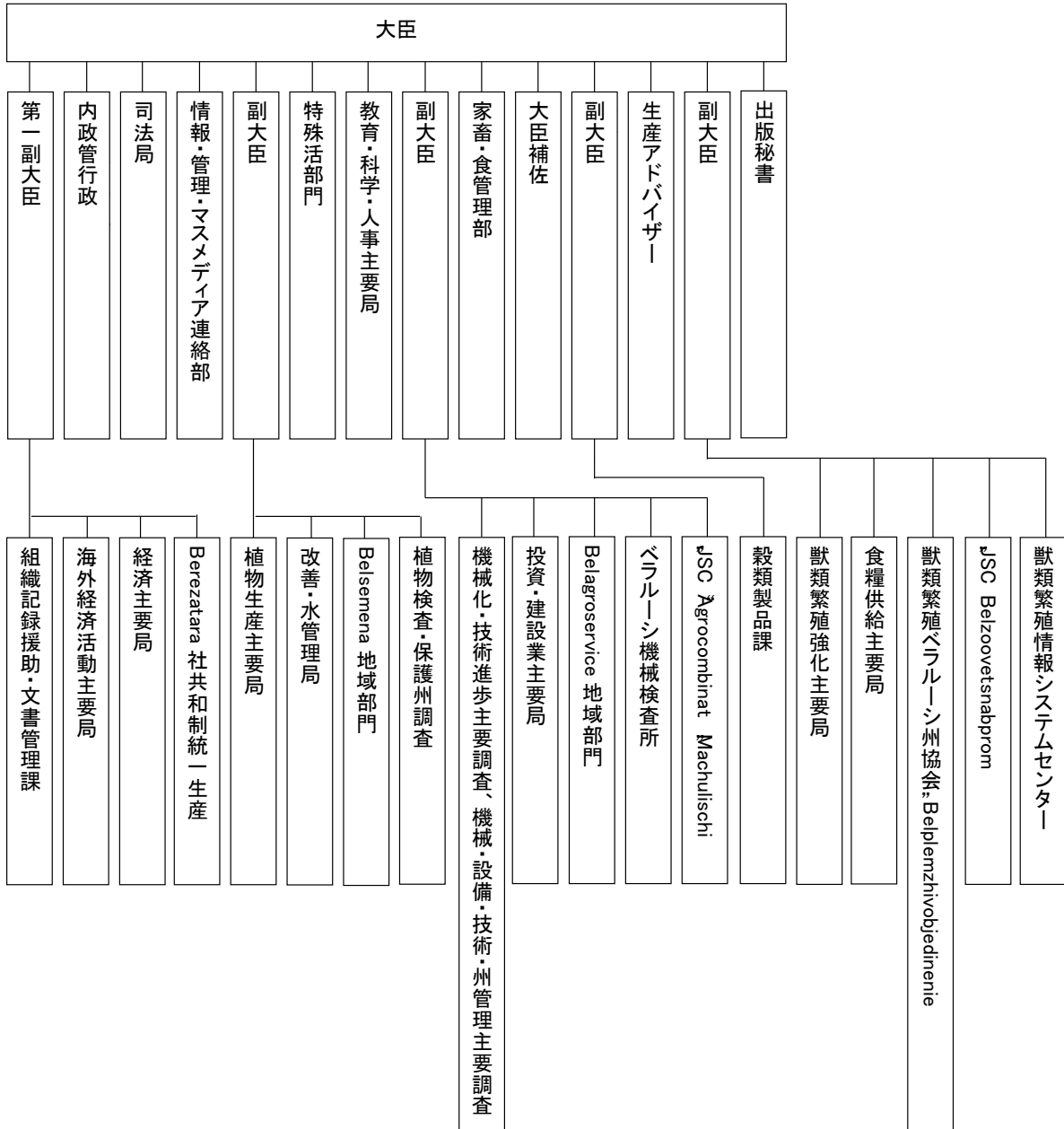
(10) 達成目標

- －農業経営での販売収益率：10～11%
- －農産物を取り扱う会社の労働生産性の成長率：167%
- －農産物成長率：139～145%
- －農産物や食料の輸出：72 億米ドル、消費物や中間投入物の輸入を考慮し、貿易の残高：40 億米ドル
- －農産物関係の会社に勤める社員の月給を国の平均に近づける。
- －農村の住民に国の標準的な社会サービスを提供し、住民の要求が高い公共道路のインフラ整備について、満足を得られるようにする。
- －農村の住民の生活の安全を向上し、農村部でのエコロジーの環境を保つ。

(11) 予算

- －国家プログラム実現のための国家予算の総計は、29.8 兆ルーブルである。

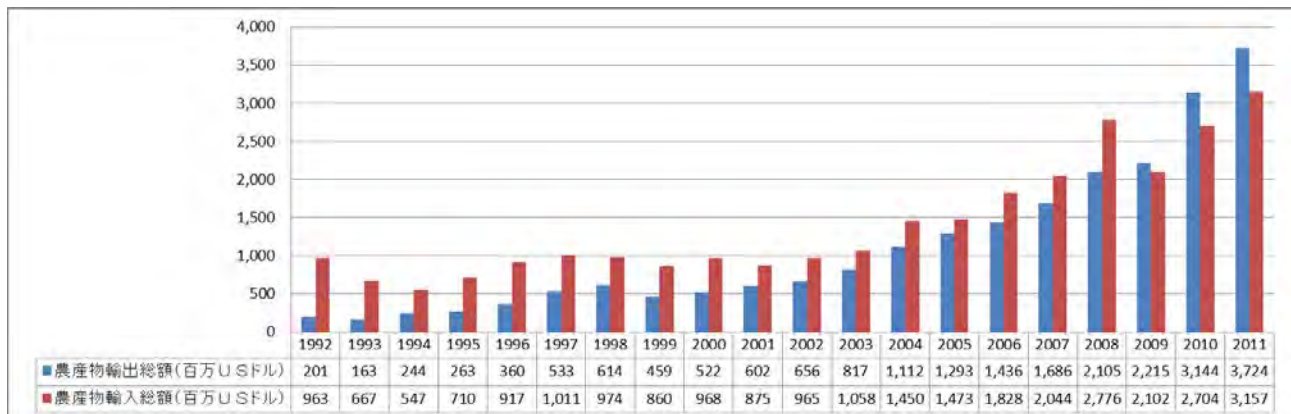
### 3. 農林水産関係政府機関・団体



## 4. 農林水産貿易の概況

### (1) 貿易状況

ベラルーシの農業は輸出の増加を目指しているため、その結果、農作物に関しては輸出額が輸入額を上回っている。貿易収支は常に黒字傾向にある。たとえば、2012年の農作物の黒字額は14億米ドル、2013年は16億米ドルである。農業部門の輸出総額は2013年には58億米ドル、輸入は42億米ドルであった。農作物の輸出の大部分はロシア向けである（2013年には47億米ドル）。CIS諸国外の収支は赤字であり、2013年には輸出が7億米ドル、輸入が24億米ドルである。



出所：FAOSTAT

農産物輸出入総額の推移(百万米ドル)

### (2) 輸出

現在、およそ320の組織が農作物の対外貿易に従事している。これらの組織は自力で独自の販売網を形成しており、全輸出量の20%がそこを経由して輸出されている。輸出品目の95%超は畜産製品である。農作物ではなたね油、亜麻、ジャガイモ、野菜などを輸出している。

輸出農産物上位5品目(2011年)

品目名	輸出額 (百万米ドル)	農産物総額に 占める割合 (%)
チーズ(牛乳由来)	557	15.0
牛肉	477	12.8
精製糖	314	8.4
バター(牛乳由来)	289	7.8
鶏肉	155	4.2
上位5品目計	1,792	48.1
上記以外農産物計	1,932	51.9
農産物総額	3,724	100.0

出所：FAOSTAT

### (3) 輸入

前述のようにベラルーシの農産物の貿易は、輸出が輸入を上回っている。輸入相手国は 2009 年のデータによるとロシアが 30%、ロシア以外の CIS 諸国が 15%、それ以外が 55%の比率である。輸入品目は同年のデータによると畜産用の飼料作物が 17.7%、果物が 7.7%、植物油が 4.5%、食肉が 3.4%、野菜が 1.9%となっている。この数字からも明らかなように、食料品の多くは輸入に頼らず、自給自足状態にある。

輸入農産物上位 5 品目(2011 年)

品目名	輸入額 (百万米ドル)	農産物総額に 占める割合 (%)
粗糖	340	10.8
大豆(飼料)	172	5.5
天然ゴム	171	5.4
タバコ	156	5.0
ひまわり油	123	3.9
上位5品目計	962	30.5
上記以外農産物計	2,195	69.5
農産物総額	3,157	100.0

出所：FAOSTAT



## 5. 農業投資状況

### (1) 農業投資概況

2014年のベラルーシ政府による投資状況は、加工産業に27.1%、輸送・通信に10%、農水産業に9.9%である。2005年には9億2,000万米ドルだった投資額は2010年に33億2,000万米ドルと3.5倍以上に増加している。また比率でも2010年には農業部門は政府の全部門の投資総額の16.7%となっている。2000年には6.7%だったことを考慮すると、2.5倍近く比率が上昇している。

政府による全投資に占める部門別の割合の推移(%)

部門	2000	2005	2010
工業	30.2	28.9	25.1
農業・漁業・林業	6.7	13.3	16.7
建設	1.4	3.0	3.7
輸送・通信	13.4	15.0	9.8
商業(自動車修理、日用品等)	2.7	3.9	3.8
その他	45.6	35.9	40.9

出所：CIS統計委員会

### (2) 他ドナーによる支援

#### 1) 国際連合食糧農業機関 FAO

##### 戦略目標別プロジェクト

ベラルーシの企業のためにFAO資金により進行中のプロジェクト(2014年1月1日現在)

##### 技術協カプログラム(TCP)

記号	名称	期間	予算総額 (米ドル)	2014/1/1 現在 使用可能額
TCP/BYE/ 3401	ベラルーシにおけるアフリカ豚コレラ流行のコントロールに対する緊急支援	2013-2015	420,000	419,100

##### FAO 信託ファンドと国家の共同プログラム(TF/GCP)

記号	名称	期間	予算総額 (米ドル)	2014/1/1 現在 使用可能額
GCP/RER/ 040/EC	旧ソ連における危険な化学物質を含むため廃止された未使用の農薬の再使用の防止能力の改善	2012-2015	8,000,001	5,252,688

##### その他の信託ファンド(TF)

記号	名称	期間	予算総額 (米ドル)	2014/1/1 現在 使用可能額
GCP/INT/ 062/GFF	東ヨーロッパ、コーカサス、中央アジア諸国における廃棄農薬と残留性有機汚染物質含有農薬の管理能力の構築(FSP)	2009-2012	1,000,000	0